

横浜再開発巡検

小林 敬子

今回の横浜巡検は、日射しが強くなり夏もいよいよ本番といった頃、熊谷先生の御指導のもと一年次学生に大学院生を加えた28人で行われた。入学してからの初めての巡検であり、期待と好奇心で胸をいっぱいしながらの参加であった。この巡検の目的は横浜市の都市開発構想とその現況である。

集合は、7月23日午前9時40分に東急田園都市線の江田駅改札口であった。そして、送迎バスに乗り、まず港北ニュータウン内の丘のセンターへと向かった。そこで港北ニュータウンの概要について住宅都市整備公団の港北局の方から説明を受けた。

港北ニュータウンとは、横浜市がこの地域における乱開発を未然に防ぐとともに、人口を計画的に誘導し、併せて都市と農業とが調和したまちを実現しようとするものである。開発目標は「緑を最大限に保存する都市」「安全な都市」「故郷を偲ばせる都市」「高度なサービスを得られる都市」である。特に前者の2つについて述べたいと思う。「緑を最大限に保存する都市」は、公園・緑道・集団農地・農業専用農地の造成によって達成されている。実際に見学してみて、公園の広さと多さに驚いた。すべり台やブランコなどの子供の遊び道具があるだけでなく、晴れた日には新宿の高層ビルや富士山が見える展望台があったり、広い運動場があったりするなど施設も充実している。子供たちのフィールドワークを広げるために、小中学校のそばに公園をつくっている。「安全な都市」の特色は、歩行者専用道・電線の地中埋設・堀割り道路・一車線のみの車道といったところに見られた。堀割り道路とは、道路が低く、まわりの建

物が少し高い所にあるという設計のものである。こうすることによって、車の騒音による被害が少なくなるそうである。

午後はみなとみらい21地区を見学した。みなとみらい21とは、横浜市が世界に開かれた人間性豊かな都市を目指す事業の一つである。現在完成している施設の中で中心的存在なのが、横浜国際平和会議場である。この設備は立派であるが、京都や幕張のものほどまだ名は知られていないので、ソフト面での充実をはかっている。みなとみらい21の他の大きな特色として共同溝・地域冷暖房システムがある。前者によって道路空間の有効利用がなされ、都市景観の向上が実現されている。後者は、多人数の熱需要に対応するためのもので、温冷熱を集中的に製造・管理し、エネルギーの効率を図っている。これらのシステムの地下管を都市廃棄物処理センターで見学した。その地下管の太く立派なものなのに驚いたが、それらが故障したときの恐ろしさを想像せずにはいられなかった。しかし、これが3年前の横浜博覧会の時には大活躍したので、横浜市のこの計画の成功の一つの土台を築くものとなったことは確かである。

そして、桜木町駅まで歩き、そこで解散となった。とにかくたくさん歩いたという印象であった。夏の暑さのせいもあり、かなりの疲労を感じたけれども、自分の足で動いて調べたり、いろいろな人に話を伺ったりして、とても充実した日であった。初めての巡検はこのようにして終わった。

この後、先生と一緒に中華街へと繰り出し、広東料理に舌づつみをうった。こうして、長い一日が暮れていった。

(7月23日 熊谷教官指導)